

ならの木便り

運動会など



ドングリ いくつあるかな？

今月、彼岸入りになると、まるで言い合わせたように急に気温が下がって、その変化に体調を崩した人も多かったようです。

私たちの子供の頃は、夏でも32度を超えるなんていうことはあまりなくて、一日の間に10度以上も気温差があったなどというのは記憶にはありませんでした。何年前か覚えておりませんが、NHKの夜の番組で放送されていたものですが、北極あるいは南極（どちらからかは覚えておりません）から始まる深い海流が、七つの海を約千年かけて一回りするの地球のエアコンの役をしているそうです。温暖化が進むに従って、その海流が消え始めているという話題を聞いたことがあります。

温暖化が原因と思われる気候変動、ウクライナとロシアの戦い、インフレの影響、心配される食糧難など、私たちを取り巻く環境は重いものが多くなりました。

そんななか、9月22日の読売新聞の朝刊、コロナの終息を期待できそうな記事がありました。やっと長いトンネルを抜けられる、私は目前に明かりが見えたような気持ちになりました。

まだ油断はできないとは思いますが、10月の中旬に行われる運動会は、多少は明るい気持ちで行えるような気がします。そして、その後続く行事も、コロナの心配をしないで行えたらと祈るような気持ちになります。今は、各教室や園庭から、毎日のように子ども達のお遊戯や競技の練習に励む声が聞こえてきます。

人間は、歩き始めた1歳の頃から小学校に入るまでに、いろいろな能力を身につけることが大切です。歩く・走る・跳ぶ・投げる・支える・転がる・ぶら下がるなど、5歳くらいの中に、子ども達は運動の基本的な形をほとんど習得していきます。新町幼稚園では、園庭の遊びや（保育時間内の）体操教室等を通して基礎体力をつけ、子ども達が丈夫で機敏な動きが取れる体力作りを目指しております。“がんばれ未来のアスリート”は、普段の体力作りの一部を見て頂くための種目です。他の種目と共に、そんな園での

取り組みをご覧頂きたいと思っております。

9月9日の金曜日の朝、日本テレビで明月堂さんのお店が紹介されたのをご覧になった方もおられると思います。このお店は、新町幼稚園でお誕生会の和菓子を作って頂いているところです。このお店の奥さんより伺った話では、この時に作られたお月見団子は、練った粉を手にとって、ほぼ均一にするのですが、これが出来るのはおじいちゃんだけだそうです。このおじいちゃんは、今年87才。朝起きる時間、ご飯を食べる時間、仕事を始める時間、夜布団に入る時間まで、一日の行動が決まっているそうです。お風呂掃除もおじいちゃんの役目で、午後の5時30分きっかりに水をため始めるのも習慣のひとつ。野球や相撲の観戦（時には競馬）も楽しむ、これを十年一日が如く続けているということです。このような人こそ『平凡のなかの非凡』の人だと思います。ちなみに、可愛いうさぎのおまんじゅうは、お孫さんである今の店主が考案したものだそうです。

毎年お月見の時期に作るこのお団子、おじいちゃんが均一分けたお団子の元を丸めるのはお孫さん夫婦がします。このお団子に限らず、ここの名物である酒まんじゅうは、皮の部分の発酵や餡を煮るのもおじいちゃんの仕事だそうです。おじいちゃんとお孫さんがお菓子を作り、お店の看板おばあちゃんがお客さんの相手をしておりましたが、体調を崩して今は引退しております。私も大好きなこのお店のお菓子は、律儀なおじいちゃんとお孫さん夫婦のホットな連携の味だったのです。

こんな愛情のこもった和菓子を、子ども達に食べさせられることが嬉しく思われた若奥さんからのお話でした。



ドンダリの答え：7個（葉の陰にも1個隠れています）